



SANUMA

# 週 報

VOL  
XVI

佐 沼 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ

## LET SERVICE LIGHT THE WAY

奉仕の灯で 道を照らそう

例会場 七十七銀行佐沼支店ホール TEL(2)-2577

例会日 毎週木曜日 12.30~13.30

事務所 振興相互銀行佐沼支店 TEL(2)-2547

会長 千葉重雄

幹事 大河内 清

週報 白石謙造 村上武彦 小林忠秋

阿部正美 秀 義弥

### 第755回例会

1979. 9. 27 No. 12

- ◎ 本日の出席率 36名中(内2名出席免除)  
欠席会員 小竹会員、秀会員、門脇会員、布施孝雄会員、  
氏家(良)会員  
ビジター 村田金一君(築館)
- ◎ ニコニコボックス
  - 小林会員  
9月24日44回の誕生日を迎えられました。おめでとうございます。益々御健勝で御活躍の程お祈り致します。
  - 布施孝之会員  
9月26日45回の誕生日を迎えられました。おめでとうございます。益々御健勝で御活躍の程お祈り致します。
  - 佐々木(源)会員  
千昌夫ショーが無事盛大裡に終了することが出来ました。皆様の御協力を感謝致します。御苦勞様でした。
  - 齊藤会員  
9月28日33回目の結婚記念日を迎えられました。おめでとうございます。
  - 鈴木(彦)会員  
先週は直前幹事の私の慰勞会を催して頂き有難うございました。ほんとうに御苦勞様でした。
  - 遊佐、布施、村上、小林、太田、阿部の各会員(JCOB)  
佐沼JC10周年記念式典を盛大裡に終了致しました。おめでとうございます。
  - 阿部会員  
かねてより新築中の店舗が9月24日オープン致しました。おめでとうございます。
- ◎ 会長要件  
先週行なわれましたソフトボール大会は天候に恵まれて最後まで熱戦を続けましてほんとうに御苦勞様でした。何れのスポーツに於いても勝敗を争うことも必要ですが、勝敗を別にして友情を深めることが最も有意義であると信じます。本日はクラブの事業所訪問が計画されております。多数参加されまして、職業意識の昂揚に努めていただきたいと思ひます。訪問します事業所は迫りコーです。幹事の説明によりよろしくお願ひいたします。白鳥の伊豆沼に当クラブで棧橋を寄贈致しましたことは御承知のとおりで

ございます。これにつきまして白鳥愛護会長、相沢幸四郎さんが私の処に御礼に参り、皆様によるしくとのこととでございます。

こじか園長の沼倉先生が挨拶に見え、9月30日園児の運動会を催しますから会員皆様御来園下され、励ましていただきたいとのこととでございます。

#### ◎ 幹事報告

- 青森南クラブの認証状伝達式の案内  
期日5.4.1.0.28(日)  
会場 青森国際会館3階フロアー  
参加希望者は幹事まで申し出て下さい
- 伊豆沼の白鳥の棧橋につきましては阿川建設さんにいろいろ配慮いただいていたしましたが、先に会員皆様から厚意の御寄付を頂き棧橋設置経費の精算を行なうことが出来ました。棧橋建設につきまして阿川建設さんに奉仕の費用で工事をお願いしましたが、今回又値引きしていただきました。皆様と拍手で感謝の意を表わしたいと思います。
- 米山財団から米山記念奨学金による55年度の奨学生募集要綱が来ています。国際奉仕委員長へ渡します。希望者は推薦して下さい。
- 青少年委員会の研修が一関でありまして、当クラブからは佐藤(幹)会員に出席していただきました。かなりの特訓で歩き歩きから初まり、いろいろあったそうです。御苦勞様でした。

#### ◎ 青少年委員会(佐藤幹委員長)

事業所訪問がありますので簡単に報告いたします。只今幹事からお話がありましたとおり14~15の両日、一関の巖美溪の旅館を中心といたしまして、青少年委員会が催されました。2日間に渡り、いろいろのお話しやら、ボーイスカウトと共に遊ぶような点もありまして非常に楽しく過ごして参りましたが、詳細には後で機会を促らえて、お話ししますが結局はインターアクト、ローターアクト、ライダー(青少年指導者育成プログラム)についての研修ですが、これを近く10月27~28日の両日、築館の花山少年自然の家を中心としまして、ライダーの講習が行なわれますが、これには青少年2名を引率して参加するようにとのことです。これについて青少年委員会を開きまして

協議したいと思いますが、青少年2名を出席させるとなると、いろいろ大変ですので皆様の御子弟のなかに花山自然の家の2日間の講習に参加させてもよいとお考えの方、ありましたら、2名御推薦いただけたら幸いです。若し希望者がなければ布施会員にお願いしてボーイスカウトより2名参加願えれば幸いです。

次に毎年行なわれています登米郡の少年野球についてですが、委員の村上会員がPTAの会長でございますので、交渉を依頼していましたが、都合により10月21日に佐沼小学校を会場として行なう予定です。尚、村上会員のお働きによりまして家庭科の教室を借りましたので好評のう

どんを皆様の手により御馳走する計画ですのでよろしくお願いたします。雨天の場合は翌週に実施することになります。

#### ◎ 職場訪問

壹岐会員の迫りコーを訪問。管理の行き届いた会社は活気に満ち満ちていた。会議室で壹岐会員より会社の概況につき説明を受け、工場見学に回る。整頓された工場で熱心に最新機械に取組む従業員達に、若さと明るさが漂う。そこに、よく管理され、信頼される製品が産み出される。

今後大いに内外に飛躍されることを念じ訪問を終る。

#### ◎ 美しく老いるには 緑ヶ丘病院長 菅野多利雄先生 (塩釜RC週報より転載)

年をとるにつれて、私達の心と身体に、老化が生じると言われています。しかし、身体の老化はどうしても防ぐことは出来ませんが、必ずしも心も同様に老化するとは限りません。

心の年齢は、生活年齢と平行して老化するものではないのです。私達は、年老いてもなお青年のように若々しい精神と活動力で東奔西走している人々を知っていますし、まだ若い年齢なのに、いわゆる老人のごとく何事にも意欲を欠き、情熱を失い無駄に過している青年達のこと事も事実であります。前者は青年的老人と言いい、後者は老人的青年とも言ふべきでしょうか。人生を美しく豊かに生きるためには、私達はいつまでも青年的老人でありたいものです。即ち美しきものに感動し、善きものに共感を持ち、自分の生存目標をはっきりと自覚し、自分の生きている必要を確信し、その目標にむかって、若々しいエネルギーで全力をそそいで歩くと、いいかえれば、「生きがい」を感じる人間でありたいと思います。このように生きがいのある人生をおくる…いわば、美しく生き、美しく老いるということはどういうことでしょうか。

次に個条書に簡単にふれてみましょう。

1. 若さとか、年よりとかは、年齢・肉体の問題ではない。老化とは、人が年をとり、これまでよりもふけて見え、今までとは違って、他の老人達と同じような態度をとるようになり、自分自身も年をとったと感じるようになることである。だから先ず、年をとったという感じから解放されて、若い感覚をもって生きることである。
2. 若い感覚をもつと言うことは、若い人々の生活、感情を理解出来るということである。勿論若い人々も老人の心を理解することが必要で、そこに生きていくための共通の場がある。家庭にあっても、社会にあっても、心を閉ざさないようにすることが大切で、自分から心を開くよう努力することである。
3. 他人の真似、即ち「老人じみた生活」をしないで、他人から影響されず、個性的生き方

をすること。老人という群れ、集団の中に身を投じてはいけない、それからの脱出こそ必要である。

4. できるだけ現在の環境に対する不平不満をとりのぞくこと。即ち、環境に対する適応能力を失わないことが大切。(豊かな人間関係)
5. 快活な精神を失わないこと。美人になるコツは、決して化粧品ではなく、心を快活に保つことであるごとく、老化に伴ういろいろなにくさを防ぐのは、やはり快活な精神であると言える。心と身体とは相関関係をもつ、たとえば、絶えざる心配や怒りは、白髪や顔のシワを増し、動脈硬化を促進し、消化不良をひきおこすと言われている。
6. いつまでも自分でやれることをする。耐えがたさ、精神的孤独感、疎外感を感じないためにも、常に何事かを為することが必要である。いわゆる「隠居」は、精神的、肉体的自殺を意味するにすぎない。
7. 「余生」を生きるはいけない。余った命などはない。余った命を生きらせるほど、日本は裕福ではない。いくつになっても、生きるに値いする人生を、生きる権利のある人生を生きるのだという自覚を持ち、自信をもって生きることが大切である。ここに生きがいを感じて生きている人の姿がある。

以上、美しく老いるための、いくつかの手がかりをのべましたが、ある学者は、こう言っております。

「人生の最後の何十年かを老人にとって大変楽しく、幸福で、大変有益で、しかも出来る限り爽りの多いものになるように努めようではないか。我々は人生の最後の時期に満足なものとなるように、特に気を使うよう努力しよう。これは自然がはっきりと定めた限界を超えて命を延ばそうと試みるよりもずっとはるかに人間としての価値あることである」と。最も多く生きた人は、「生」を最も多く感じた人であると言われるごとく、この辺に美しく生き、美しく老いる手がかりがあるのではないのでしょうか。